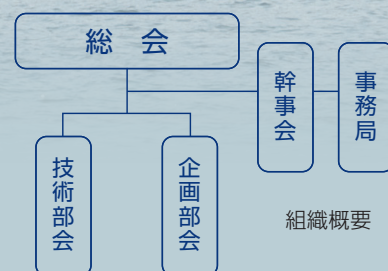




アルコル橋(フランス : Pont d'Arcole) パリ、セーヌ川に架かる鉄製の歩道橋

■全国高欄協会とは

当協会は、現在各材質(アルミ・鋼・鉄等)の高欄メーカー8社で構成されています。高欄・橋梁用防護柵製品の品質及び加工技術の向上に努め、その普及により社会に貢献する事を目指し日々活動を続けています。組織は総会を頂点に、各部会において製品の強度検証、品質向上の基準作成・指導、行政・設計者向け提案書の発行、また定期的に講習会、講演会、勉強会を実施しています。



橋梁用防護柵を通して
街づくりと交通安全に取り組んだ40年

Forty Years of Commitment to Urban Design
and Traffic Safety through Bridge Railings.

40th
Anniversary
1986-2026



Message

攻めと守りの施策を通して 高欄の補修推進と品質向上を目指しています



ご挨拶

一般社団法人全国高欄協会の設立40周年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当協会は、欄干及び橋梁用防護柵（以下「高欄」と記す）の品質、技術の向上及び生産・販売・施工に携わる企業の社会的地位の向上に努め、高欄の普及により交通安全及び公共の福祉に寄与することを目指して居ります。ここに、当協会が設立40周年を迎えられたことを、行政をはじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げると共に、これまで当協会の発展に尽力されました歴代役員、会員の皆様に対し敬意を表します。

さて、当協会のこの2015年からの10年を振り返りますと、高欄の安全性向上は勿論、補修取り換え提案と、これから先どのように社会に貢献するべきか、環境に応じた高欄の存在価値を考えた10年でした。2015年に国土交通省管轄の橋梁の点検補修が一巡した後、2020年の新型コロナウィルスの蔓延、またロシアのウクライナ軍事侵襲等の世界情勢の不安定状況、また国内の物価高騰による厳しい財政状況下で、各社ライフサイクルコストのパフォーマンスを高めることに尽力して参りました。

そのような中、当協会としては攻めの施策として、「高欄改修のすすめ」パンフレットを皮切りに、高欄協会ニュースNO.3・NO.4を発刊、併行して建設コンサルタント向けの講習会に講師として参加するなど、高欄の補修提案を実施して居ります。一方、守りの施策として「静荷重試験機認定制度」の継続審査を2023年に当協会会員企業全社で実施し、各社とも協会認定基準をクリアすることで、安全・安心な製品を提供できる企業であることを証明して居ります。

私たち一般社団法人全国高欄協会は、誰もが安心して快適に利用できる橋梁の実現を目指して、より一層、高欄に纏わる品質・技術の向上に努力して参ります。今後とも、皆様のご指導ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。

2026年2月

一般社団法人 全国高欄協会
会長 四谷 昭浩

Commitment

安全性と景観性に加え カーボンニュートラルに向けた取り組み



会員企業 8 社の製品は静荷重試験による協会認定品

協会では会員企業に向けて「橋梁用ビーム型防護柵支柱 静荷重試験機認定制度」を平成27年10月より開始しました。これは、協会支給の供試体の試験を各社で行い、使用した試験機の構造及び試験データを協会へ提出した後、協会においてデータ内容を精査し適正であると判断された試験機に有効期限5年の認定証を発行する制度です。協会の統一基準を設けることにより、協会所属企業製品の安全性における平準化を図り、信頼性の向上を目指しています。

※会員企業は令和5年に認定を更新しています。



静荷重試験機と認定証（サンプル）

ライフサイクルコスト低減で次代の課題に取り組む

全国高欄協会は、橋梁における交通安全と魅力ある景観の創出を目指し、40年にわたり活動を重ねてまいりました。専門知識を活かし、協会独自の「防護柵の設計に関する統一見解」を発行するなど、安全基準の高度化を推進するとともに、新たな課題を迅速に把握し、その解決策を提示してきました。

近年は、高度成長期に建設された橋梁の防護柵が改修期を迎えており、会員企業は全国各地で更新工事を担っています。安全性に課題のある旧基準の防護柵も、新しい基準の製品へと着実に置き換えが進められています。

今後は安全性・景観性の他、カーボンニュートラル実現にもつながる製品のライフサイクルコスト低減を推進し、未来の社会基盤を支えることが、協会の重要な使命であると考えています。

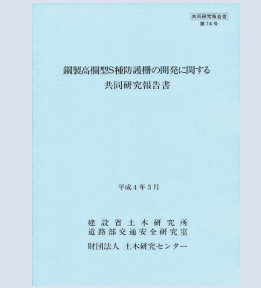


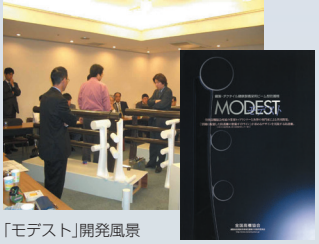
定例技術部会

「防護柵の設計に関する統一見解」(第8版より)

History

橋梁用防護柵を追求してきた協会40年の歩み

年(西暦)	月	活動・研究等	関連事項
昭和61年(1986)	2月	「防護柵設置要綱・資料集」発刊にあたり、材質が異なるメーカーで要綱の理解と材質を越えた統一的な品質保証を目的とした会を発足させる。	 協会発足当時の会議風景
	2月	会の名称を「高欄協議会」とする。	
	7月	建設省(現:国土交通省)より「防護柵設置要綱・資料集」発刊。	
昭和62年(1987)	6月	「防護柵設置要綱・資料集」に基づく橋梁用防護柵の開発を集中的に審議し、今後の資料集の円滑な運用や建設省土木研究所の要請(従来防護柵を補強して資料集A種B種に対応させるための実車実験)を受け、高欄協議会を発展的に継続していくことを決議。	 鋼製の補強高欄(ベース補強)、ダクタイル製補強高欄の実車衝突試験成功。
	8月	建設省土木研究所にて鋼製の補強高欄(地覆かさ上げ)の実車衝突試験成功。	
	10月	鋼製の補強高欄(ベース補強)、ダクタイル製補強高欄の実車衝突試験成功。	
昭和63年(1988)	2月	北海道土木技術会主催の講習会で各材質別に橋梁用防護柵の技術説明を実施。	 土木研究所での実車実験の様子
	8月	講演会「高エネルギータイプの防護柵実験の報告」 講師:建設省土木研究所 濱田氏	
平成2年(1990)	10月	講演会「アルミ製S種防護柵実車試験の報告」 講師:建設省土木研究所 酒井氏	 「鋼製高欄型S種防護柵の開発に関する共同研究報告書」
	12月	会名称を「全国高欄協議会」に変更。	
平成3年(1991)	10月	鋼製S種防護柵の実車衝突試験成功。	 「防護柵の設置基準・同解説」改定。 3次元衝突シミュレーションを用い新基準防護柵の強度検証を行う。
平成4年(1992)	1月	講演会「第11次道路整備55箇年計画について」 講師:建設省道路局 土山氏	
平成5年(1993)	3月	「鋼製高欄型S種防護柵の開発に関する共同研究報告書」発刊。	 ホームページのトップ(旧)
	10月	講演会「防護柵の今後の方向について」 講師:建設省土木研究所 安藤氏	
平成6年(1994)	10月	講演会「最近の道路事情について」 講師:建設省道路局企画課 藤本氏	 「防護柵の設置基準・同解説」改訂
平成8年(1996)	2月	アルミ製S種防護柵実車衝突試験成功。	
平成9年(1997)	11月	3次元衝突シミュレーション開発着手。	 「防護柵の設置基準・同解説」改訂
	1月	地覆幅500mmに設置する場合について検討。 車両用防護柵静荷重試験装置について再検証。	
平成10年(1998)	8月	全国高欄協議会として証明する品質を公的機関と同質に扱ってもらうため、試験装置・試験方法の基準・製品品質保証も含め検討、規格化。	 「防護柵の設置基準・同解説」改訂
	11月	「防護柵の設置基準・同解説」改定。 3次元衝突シミュレーションを用い新基準防護柵の強度検証を行う。	
平成11年(1999)	1月	防護柵改定の動きについて報告。新基準通達について説明。 「防護柵の設置基準改定に関するQ&A」発行。	 「防護柵の設置基準・同解説」改訂
	9月	(社)全国道路標識・表示協会四国支部主催の新基準説明会。 全国高欄協議会の事業案内書作成。	
平成12年(2000)	12月	「防護柵の設置基準・同解説」説明資料発行。	 「防護柵の設置基準・同解説」改訂
	8月	新基準合格製品の一覧表を作成。 JH半壁式高欄について検討・商品化。	
	10月	名称を「全国高欄協会」に変更。 橋梁用ビーム型防護柵合格一覧表、風荷重の考え方、車止・親柱の強度についての検討。	
	12月	合格製品一覧表の検証、Pmax一覧表提出、各社塗装仕様検証。 ホームページ開設。	

年(西暦)	月	活動・研究等	関連事項
平成13年(2001)	4月	雪荷重について検討。伸縮の対応について検討。	 設立20周年記念誌
	7月	アンカーボルトの垂鉛メッキとコンクリートの付着について報告。	
	9月	アルミ製半壁式高欄の実車衝突試験成功。	
平成14年(2002)	11月	高欄設計仕様のアンカーL型・U型の破壊について検証。 講演会「日本の道路事情について」 講師:衆議院議員 福井 照氏	 「モデスト」開発風景
	7月	全国高欄協会のパンフレット作成。	
平成15年(2003)	11月	基礎定着部について検討。	 「高欄改修のすすめ」
	2月	講演会「日本の人口推移と問題点」 講師:衆議院議員 福井 照氏	
平成16年(2004)	11月	品質基準・表面処理について検証。品質保証認定書の発行について検討。	 30周年記念誌とロゴマーク
	3月	「防護柵の設置基準・同解説」改定。 「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」発刊。	
平成17年(2005)	7月	勉強会「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」 講師:株式会社日軽エンジニアリング 三上氏	 「高欄改修のすすめ」
	9月	協会加盟10社にて「鋼製新型橋梁用車両防護柵共同開発委員会」設立。	
平成18年(2006)	10月	景観に配慮した新型防護柵として「モデスト」開発・発売。	 コンサル講習会(新潟)
平成19年(2007)	2月	設立20年、記念誌の発行。	
平成20年(2008)	11月	「モデスト」に関して共同開発報告書を作成。	 「高欄改修のすすめ」
	1月	「防護柵のリニューアル」作成・配布。 「防護柵の設置基準・同解説」改定。	
平成21年(2009)	10月	全国高欄協会ニュースNo.1(高欄協会PR用)発行、全国主要官庁に配布。	 「高欄改修のすすめ」
平成24年(2012)	2月	あと施工アンカーの埋め込み深さについて検討。 会員企業の試験機性能再確認を実施。	
平成27年(2015)	10月	一般社団法人 全国高欄協会に変更。	 「高欄改修のすすめ」
	12月	全国高欄協会ニュースNo.2(一般社団法人化について)発行。	
平成28年(2016)	2月	高欄改修用パンフレット「高欄改修のすすめ」制作・配布。	 「高欄改修のすすめ」
	10月	静荷重試験機の協会認定制度を開始。	
平成29年(2017)	2月	設立30年、記念誌の発行。 30周年を記念して協会ロゴマークを制作。	 「高欄改修のすすめ」
	7月	建設コンサルタンツ協会北陸支部(新潟)技術講習会実施	
令和元年(2019)	9月	建設コンサルタンツ協会中国支部(広島)技術講習会実施 建設コンサルタンツ協会四国支部(高知、香川、愛媛、徳島)技術講習会実施	 「高欄改修のすすめ」
	12月	「防護柵設置基準・同解説」改訂	
令和3年(2021)	7月	「高欄協会ニュースNo.3」発行	 「高欄改修のすすめ」
	10月	佐賀県建設技術支援機構 講習会実施	
令和4年(2022)	3月	三重県測量設計業協会 技術セミナー実施	 「高欄改修のすすめ」
令和8年(2026)	7月	「防護柵の設置基準・同解説 ボラードの設置便覧」改訂	
	10月	「高欄協会ニュースNo.4」発行	 「高欄改修のすすめ」
	2月	ガードレール・ガードパイプ使用の適・不適判断見解開示	
令和8年(2026)	2月	設立40年を迎える。 40 th Anniversary 1986-2026	 「高欄改修のすすめ」

Members

弛まぬ挑戦で業界をリードする会員企業 (50音順)

40th
Anniversary
1986-2026

FM Railing **IFIM**レーリング株式会社

ダクトイル鋳鉄製橋梁用防護柵のパイオニアです

福岡県福岡市東区東浜 2-6-45
TEL : 092-651-7351
FAX : 092-641-7943
Email : info@fm railing.co.jp
http://www.fm railing.co.jp/



勘六橋(福岡県)



徳田橋(岩手県)

DAICHU **大阪高級鋳造鉄工株式会社**

鉄を育み、鉄を活かす

大阪府枚方市招提大谷 2-10-1
TEL : 072-856-2301
FAX : 072-856-2306
Email : contact02@dg-osakakogyu.co.jp
https://dg-osakakogyu.co.jp/



三宮新港ベデストリアンデッキ(兵庫県)

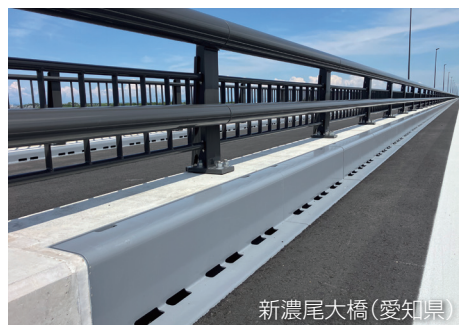


矢田橋(兵庫県)

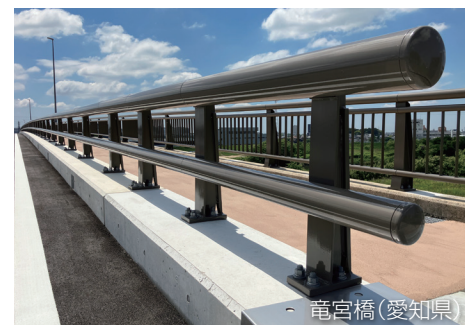
ADVANCED TECHNOLOGY **KOWA** 株式会社 興和工業所

always be around

土木建材部
愛知県半田市潮干町 1-10
TEL : 0569-29-3041
FAX : 0569-29-3054
Email : d-kenzai@at-kowa.com
http://www.at-kowa.co.jp/



新濃尾大橋(愛知県)



亀宮橋(愛知県)

昭和鉄工株式会社

橋や街の安全と景観を考える

福岡県古賀市糸ヶ浦 52
TEL : 092-944-1860
FAX : 092-944-1930
Email : showa@showa.co.jp
http://www.showa.co.jp/



富士橋(山梨県)



野洲川橋(滋賀県)

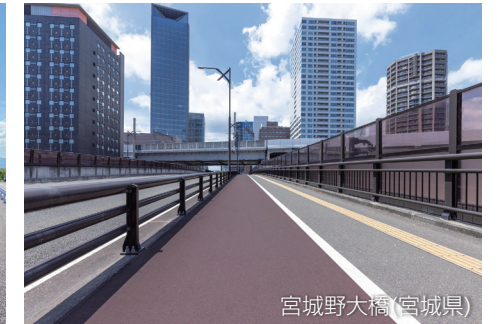
SEKISUI JUSHI | 積水樹脂株式会社

社会の景色に、安全と心地よさを。

東京都港区東新橋 1-5-2 10F
TEL : 03-6758-1059
FAX : 03-6758-1084
Email : sjc@sekisuijushi.co.jp
http://www.sekisuijushi.co.jp/



草津川跡地公園 跨線橋(滋賀県)



宮城野大橋(宮城県)

株式会社 **ダイクレ**

日本のトップメーカーから世界のトップメーカーへ

橋梁営業部
東京都江東区亀戸 2-18-10
TEL : 050-3734-0206
FAX : 03-5628-1077
Email : bridge-eigyo2@daikure.co.jp
http://www.daikure.co.jp/



伏見港公園橋(京都府)



大福跨線橋(岡山県)

日軽エンジニアリング株式会社

美しいまちとあなたのアル未来

東京都港区新橋 1-1-13
TEL : 03-6810-7473
Email : web-master@sne.co.jp
http://www.sne.co.jp/



肱川橋(愛媛県)



富士川かりがね橋(静岡県)

NIPPON STEEL | 日鉄神鋼建材株式会社 ~道路から橋梁まで~ 唯一無二の防護柵総合メーカー

東京都千代田区外神田 4-14-1
TEL : 03-6625-6650
FAX : 03-6625-6651
Email : hp_inquiry@shinkokenzai.co.jp
http://www.shinkokenzai.co.jp/



加茂橋(千葉県)



神戸空港連絡橋(兵庫県)